

「送状兼請求データ」標準フォーマット

（１９９８年版）

１９９８年９月

社団法人日本鉄鋼連盟
鉄鋼流通情報化委員会
鉄鋼EDIセンター

まえがき

本「送状兼請求データ」標準フォーマットは、メーカー・商社間で授受する送状・請求データについて、その標準とすべきフォーマットおよびフォーマット上に設定する各項目の内容・コード体系等について規定したものである。

本標準フォーマットは、1972年の第271回鋼材倶楽部理事会（当時）において承認され、初版が刊行されている。

その後の鋼材取引情報の内容変化並びに情報交換手段の技術的進歩に合わせて改訂版が作成され、1989年の第15回帳票・コード専門委員会（当時）において承認された。

今回「1998年版」作成の契機となったのは、同年4月の外国為替管理法改正であり、国内における決済に対しても外貨の適用が自由化された。これを受けて鉄鋼輸出取引でのメーカー・商社間決済について、外貨の適用を可能とするためのフォーマット改訂が必要となった。同時に取引の現状に鑑み、前受金関連項目の適用を除外する修正を行い、同年の第38回鉄鋼EDIセンター 鉄鋼EDI幹事会（鉄鋼流通情報化委員会の実務組織）において承認されたものである。

初 版 : 1972年3月23日 第271回鋼材倶楽部理事会（当時）
改訂版 : 1989年9月 5日 第15回帳票・コード専門委員会（当時）
1998年版 : 1998年9月26日 第38回鉄鋼EDIセンター 鉄鋼EDI幹事会

本標準フォーマットに関する質問は下記宛にお願いします。

鉄鋼EDIセンター 事務局

社団法人日本鉄鋼連盟 情報開発部 EDI推進課

住所 : 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10（鉄鋼会館内）

電話 : (03) 3669-4820

FAX : (03) 3639-5249

e-mail : edi@kozai-club.or.jp

「送状兼請求データ」標準フォーマット

1. 本標準フォーマットの内容、適用範囲について

本標準フォーマットは、「送状兼請求データ」のフォーマット上に設定される各項目の内容・コード体系等について規定したものであり、メーカー・商社間において、出荷および請求に関する情報を授受する場合は、原則として本標準フォーマットによるものとする。

(参考)

本標準フォーマットは、鉄鋼全品種の国内取引、輸出取引の双方について、通常の売掛金請求に関する情報授受のすべてに適用するものである。

また、本データの授受に関連する具体的事項（例えばデータの伝送方法、データの発行サイクル、データの受渡場所等）についても、当該メーカー・商社間の協議によることとしている。

2. 送状兼請求データ項目の対象範囲について

送状兼請求データについては、以下の商流情報を基本とした項目で構成する。

①契約条件項目

②出荷案内としての出荷年月日、輸送便、本船名等の項目

③請求条件項目

物流管理に必要なメーカー独自データ（例：現品管理項目データ）については、送状兼請求データとは性格が異なるものであり、別途の情報として扱うものとする。（「別途の情報」の扱い方については、後述 4.を参照。）

3. 本データの構成およびフォーマットについて

本データは1レコードを1200桁の固定長として構成し、各レコード内に設定するのは60項目である。その項目名、桁数および配列順序は、第1表および第1図による。

(参考)

本データは、送状と請求書双方の機能を兼用させることを目的としたものであり、通常の送状および請求書に記載されている項目の中から重要な60項目を選び、これを1レコードとして構成した。

なお、本データの両端には、「スタートレコード」および「エンドレコード」を付する。

「スタートレコード」および「エンドレコード」を設定する項目、桁数、配列順序および使用するコード等は第2図による。

4. 送状兼請求データの送付に際しての運用ルール

(1) 送状兼請求データの送付について

物流管理に必要なメーカー独自データをシステム構造上同一ファイルで送付することが

有効である場合には、下記の条件内で同一ファイルの授受を可能とする。

〔条件〕

- ①同一ファイルで送付する独自データの「レコード長」は、送状兼請求データのレコード長と同一とする。
- ②「データ種別」は、送状兼請求データと区別する。
- ③エンドレコードの「レコード件数」は、独自データを含めたファイル内総件数とする。

(2) データ伝達確認のための方法について

送付データが無い場合は原則として“0件データ”の送付をもって伝達確認とする。但し、別途の確認データの送付をもって確認することも可とする。

なお、送付する際の運用ルールの詳細については、メーカー・商社間の取り決めとする。

5. 本データ上に設定する 60 項目の内容・コード体系等について

上記 60 項目の内容定義、コード体系、アウトプット要領等は、別項「各項目の内容・コード体系」による。

(参考)

- (1)「標準項目のマニュアル」に規定されている項目については、同マニュアルの規定をほぼそのまま採用した。同マニュアルに規定されていない項目については、新たに内容・コード体系等を規定した。

- (2)各レコードの内容種別を識別する項目を例示すると下記のとおりである。

「新規」、「取消」、「訂正後」、「値差処理」等の識別

……………項目 NO.4 「新訂区分」

“国内取引”、“輸出取引”の識別……………項目 NO.7「国内・輸出区分」

“売掛金請求”の邦貨／外貨の識別……………項目 NO.8「請求区分」

- (3)輸出取引については、明細（行番単位）データのほか、明細合計（Grand Total）データもアウトプットする。明細合計データは、項目 NO.14 「出荷請求番号行番」欄にコード“GT”をアウトプットして識別する。明細データ、明細合計データのアウトプットについては第2表の参考例を参照のこと。

6. 本データ上に設定する 60 項目のアウトプットの要否について

各データ別の 60 項目のアウトプットの要否は、第3表による。

7. 本データの訂正方法について

本データの訂正（値差処理を含む）は、いわゆる赤黒方式により、第4表に示す参考例に

準じて行なう。

8. 本標準フォーマットのメンテナンスについて

本標準フォーマットのメンテナンスは、「標準項目・コードの改廃、設定についての規定」を準用し、鉄鋼E D Iセンターまたは事務局において行なう。

第 1 表 標準フォーマットの設定項目、桁数及び配列順序について

項目 No.	項 目 名	桁 数	項目 No.	項 目 名	桁 数
1	スタート・エンド識別	1 A	36	請求基礎	1S+8N
2	データ種別	1 A	37	完納マーク	1 N
3	メーカー	2 A N	38	鋼番	7 A N
4	新訂区分	1 N	39	船番	5 A N
5	訂正要因	1 N	40	需要家管理番号	22 A N
6	訂正理由	2 A N	41	口銭	1A+7N
7	国内・輸出区分	1 N	42	別途加減料	1AN+6N
8	請求区分	1 N	43	検査料	1N+1S+5N
9	請求種別	1 N	44	仮単価区分	1 A
10	請求年月日	6 N	45	単価建	1 A
11	契約番号	12 A N	46	販売単価	1A+9N
12	契約番号行番	3 N	47	請求単価	1S+7N
13	出荷請求番号	12 A N	48	請求金額	1S+10N
14	出荷請求番号行番	2 A N	49	決済条件	6 A N
15	訂正前出荷請求番号	12 A N	50	入金予定日	6 N
16	訂正前出荷請求番号行番	2 A N	51	為替レート	1AN+5N
17	出荷年月日	6 N	52	旧前受金関連項目	
18	注文者	3 N		前受金入金年月日	6 N
19	注文者店部課	6 A N		前受金金利終算年月日	6 N
20	注文者照合番号	9 A N		前受金金利負担日数	4 N
21	需要家	6AN+35AN		前受金金利（率）	6 N
22	揚港・最終仕向国	5AN+3N+4		前受金金利（額）	1S+8N
23	受渡条件	0AN		前受金請求	1S+10N
24	受渡場所・住所	2N+15AN		（償却）金額	
25	一次・二次経由地	6AN+100A		差引請求金額	1S+10N
		N	53	消費税課税区分	1 A N
26	輸送便	6AN+6AN	54	消費税率	4 N
27	輸出入船名	+40AN+40A	55	消費税額	1S+10N
28	工場	N	56	売上計上年月	4 N
29	品種・品名	2AN+25AN	57	消費税決済条件	6 A N
30	規格・仕様	25 A N	58	消費税入金予定日	6 N
31	等級	2 A N	59	関税法資産区分	1 A N
32	寸法	14 A N	60	備考欄	
33	梱包結束数	30 A N		(1) 共通予備桁	17 A N
34	員数	2 A N		(2) メーカー独自使用桁	356 A N
35	質量	33 A N			
		2 N			
		1A+1S+7N			
		1S+9N			
			合 計		1200

(注) A：英字 N：数字 S：マイナスサイン

第1図 「レコード」のフォーマット

ANS区分	A	A	AN	N	N	AN	N	N	N	N	AN	N	AN	AN	AN	AN	N	N	AN	AN	AN	AN	AN	N	AN	N	AN	AN	AN
項 目 名	スタート・ エンド識別	データ種別	メーカー	新訂区分	訂正要因	訂正理由	国内・輸出区分	請求区分	請求種別	請求年月日	契約番号	契約番号行番	出荷請求番号	出荷請求番号 行番	訂正前 出荷請求番号	訂正前出荷 請求番号行番	出荷年月日	注文者	注文者店部課	注文者照合番号	需要家	揚港・ 最終仕向国	受渡条件	受渡場所・住所					
桁 数	1	1	2	1	1	2	1	1	1	6	12	3	12	2	12	2	6	3	6	9	6	35	5	3	40	2	15	6	100

AN	S	区	分	AN	AN	AN	AN	AN	AN	AN	AN	N	A	S	N	S	N	S	N	N	AN	AN	AN	A	N	AN	N																
項 目 名				一次・二次 經由地				輸送便		輸出本船名		工場		品種・品名		規格・仕様		等級		寸法		梱包結束数		員数			質量			請求基礎		完納マーク		鋼番		船番		需要家管理番号		口 銭		別途加減料	
桁 数				6	6	40	40	2	25	25	2	14	30	2	33	2	1	1	7	1	9	1	8	1	7	5	22	1	7	1	6												

旧前受金関連項目																													
ANS区分	N	S	N	A	A	A	N	S	N	S	N	AN	N	AN	N	N	N	N	S	N	S	N	N	N	N	N	S	N	
項 目 名	検 査 料			仮単価区分	単価建	販売単価		請求単価		請求金額		決済条件	入金予定日	為替レート		(1) 前受金入金年月日	(1) 前受金金利 終算年月日	(1) 前受金金利 負担日数	(1) 前受金金利(率)	(1) 前受金金利(額)	(1) 前受金請求 (償却)金額	(2) 前受金入金年月日	(2) 前受金金利 終算年月日	(2) 前受金金利 負担日数	(2) 前受金金利(率)	(2) 前受金金利(額)			
桁 数	1	1	5	1	1	1	9	1	7	1	10	6	6	1	5	6	6	4	6	1	8	1	10	6	6	4	6	1	8

旧前受金関連項目																								
ANS区分	S	N	N	N	N	N	S	N	S	N	S	N	AN	N	S	N	N	AN	N	AN	AN		AN	
項 目 名	(2) 前受金請求 (償却)金額	(3) 日 前受金入金年月	(3) 前受金金利 終算年月日	(3) 前受金金利 負担日数	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	(3) 前受金請求 (償却)金額	消費税課税区分	消費税率	消費税額	売上計上年月	消費税込決済条件	消費税入金予定日	関税法資産区分	備考 (1)共通予備桁	備考 (2)メーカー独自使用桁			
桁 数	1	10	6	6	4	6	1	8	1	10	1	10	1	4	1	10	4	6	6	1	1 7		3 5 6	

(注) 1. A : 英字 N : 数字 S : マイナスサイン 2. レコードサイズ : 1 2 0 0 バイト ブロックサイズ : 3 6 0 0 バイト (磁気テープの場合)

第2図「スタートレコード」、「エンドレコード」のフォーマット

〔スタートレコード〕

A・N区分	A	A	N	AN	N	
項 目 名	スタート識別	データ種別	注文者	メーカー	作成年月日	スペース
桁 数	1	1	3	2	6	1 1 8 7

(注) スタート識別コード：A データ種別コード：S

〔エンドレコード〕

A・N区分	A	N	N	N	
項 目 名	エンド識別	件 数	総質量	総金額	スペース
桁 数	1	5	1 1	1 1	1 1 7 2

(注) エンド識別コード：Z 総質量：下2桁目をKgに固定 総金額：単価建にかかわらず、金額値を単純に総計する。

- ① スタートレコード、エンドレコードのスペース部分の使用についてはメーカー自由とする。
- ② エンドレコードの「件数」にはスタートレコードとエンドレコード間のデータ部分の総件数をアウトプットする。
従ってスタートレコードとエンドレコードはこの件数に含めないものとする。
- ③ 輸出の場合、エンドレコードの「件数」「総質量」「総金額」にアウトプットする数値は、“GT（グランドトータル）”分を含めたものとする。

第2表 明細（行番単位）データ、明細合計（Grand Total）データのアウトプット参考例

例. 輸出売掛金請求の場合

	国 内 輸出区分	請求区分	契約番号	契約番号 行 番	出荷請求番号	出荷請求 番号行番 (注2)	品 種 品 名	寸 法	員 数	質 量	口 銭	販売単価	請求単価	請求金額
明 細	2 (輸出)	3 売掛金	K365	001	S108	01 (ﾌﾟﾗﾝｸ)	J 23	9 mm ×	500	26.2 T	2.5%	350.00ﾄﾞﾙ	341.25ﾄﾞﾙ	8940.75ﾄﾞﾙ
	2	3 外貨請求	K365	001	S108	02 (ﾌﾟﾗﾝｸ)	J 23	10.5m	300	15.7 T	2.5%	350.00ﾄﾞﾙ	341.25ﾄﾞﾙ	5357.63ﾄﾞﾙ
	2	3	K365	002	S108	03 (ﾌﾟﾗﾝｸ)	J 23	9 mm ×	400	29.6 T	2.5%	400.00ﾄﾞﾙ	390.00ﾄﾞﾙ	11544.00ﾄﾞﾙ
	2	3	K365	002	S108	04 (ﾌﾟﾗﾝｸ)	J 23	10.5m	200	14.8 T	2.5%	400.00ﾄﾞﾙ	390.00ﾄﾞﾙ	5772.00ﾄﾞﾙ
								10mm×12m 10mm×12m						
合 計	2	3	K365		S108	G T			1,400	86.3 T	2.5%			31564.38ﾄﾞﾙ

- (注) 1. 本データフォーマット上へ設定した各項目（60項目）のアウトプットの要否については、第3表「60項目のアウトプットについて」を参照のこと。
2. 当該レコードのデータが明細分（行番単位）の場合は、「出荷請求番号行番」のアウトプットはメーカー自由とする。当該レコードのデータが明細合計分（Grand Totalのデータ）の場合は、必ず「出荷請求番号行番」に“GT”をアウトプットする。

第 3 表 60 項目のアウトプットについて

○印……アウトプットの可能性のあるもの
 ×印……アウトプットの可能性が無いもの

No.	項 目 名	国 内	輸 出		値差処理			摘 要
		売掛金 請 求	売掛金請求		行 番 単 位	約 定 単 位	約 定 一 括	
			明細	明細合計				
			データ	データ				
		新 消 取 後	新 消 取 後	新 消 取 後				
1	スタート・エンド識別	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
2	データ種別	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
3	メーカー	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
4	新訂区分	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
5	訂正要因	× ○ ○	× ○ ○	× × ×	○	○	○	
6	訂正理由	× ○ ○	× ○ ○	× × ×	×	×	×	※
7	国内・輸出区分	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
8	請求区分	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
9	請求種別	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
10	請求年月日	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
11	契約番号	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
12	契約番号行番	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	○	×	×	訂正の場合に出荷請求番号を新規に採番しないメーカーはアウトプット不要
13	出荷請求番号	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
14	出荷請求番号行番	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
15	訂正前出荷請求番号	× ○ ○	× ○ ○	× ○ ○	○	○	○	
16	訂正前出荷請求番号行番	× ○ ○	× ○ ○	× ○ ○	×	×	×	
17	出荷年月日	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	訂正が2回以上にわたる場合にはブランクでも差し支えない
18	注文者	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
19	注文者店部課	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
20	注文者照合番号	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	×	
21	需要家	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
22	揚港・最終仕向国	× × ×	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
23	受渡条件	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
24	受渡場所・住所	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
25	一次・二次経由地	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
26	輸送便	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
27	輸出本船名	× × ×	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
28	工場	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
29	品種・品名	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	○	○	○	
30	規格・仕様	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
31	等級	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
32	寸法	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
33	梱包結束数	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
34	員数	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	×	
35	質量	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
36	請求基礎	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	○	○	×	当項目を使用しないメーカーはアウトプット不要
37	完納マーク	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
38	鋼番	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
39	船番	○ ○ ○	× × ×	× × ×	×	×	×	
40	需要家管理番号	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
41	口銭	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
42	別途加減料	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
43	検査料	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
44	仮単価区分	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
45	単価建	× × ×	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
46	販売単価	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	×	×	×	
47	請求単価	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	○	○	○	
48	請求金額	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
49	決済条件	○ ○ ○	○ ○ ○	× × ×	○	○	○	
50	入金予定日	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
51	為替レート	× × ×	○ ○ ○	○ ○ ○	×	×	×	
52	旧前受金関連項目	— — —	— — —	— — —	—	—	—	
53	消費税課税区分	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
54	消費税率	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
55	消費税額	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
56	売上計上年月	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
57	消費税決済条件	○ ○ ○	× × ×	× × ×	○	○	○	
58	消費税入金予定日	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
59	関税法資産区分	× × ×	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	
60	備考							

(注) 摘要欄の※：アウトプット不可能な場合は当面ブランクでも差し支えない

第 4 表 訂正方法の参考例

例 1. 「員数」、「質量」の訂正とこれにともなう「請求金額」の訂正の場合

新訂区分	訂正 要因	請求 区分	請求種別 (注 3)	契約 番号	契約番号 行 番	出荷請求 番 号	訂 正 前 出荷請求 番 号	出 荷 年月日	注文者	受渡 条件	品 種 品 名	員 数	質 量	口 銭	別 途 加減料	仮単価 区 分	販売単価	請求単価	請求金額
0 (新 規)		1	1	K365	2	S108		98. 6.15	001	11	J23	250	500T	2. 5%	150 円/T		30,000 円/T	29,400 円/T	14,700,000 円
1 (取 消)	2	1	1 (2)	K365	2	S108		98. 6.15	001	11	J23	-250	-500T	2.5%	150 円/T		30,000 円/T	29,400 円/T	14,700,000 円
2 (訂正後)	2	1	2	K365	2	S108		98. 6.15	001	11	J23	300	600T	2.5%	150 円/T		30,000 円/T	29,400 円/T	17,640,000 円

- (注) 1. 「新訂区分」が“新規”の場合にアウトプットした項目は、“取消”“訂正後”の場合にもすべてアウトプットするものとする。
ただし、「出荷年月日」については、訂正が 2 度以上にわたる場合にはアウトプットされないこともありうる。
2. 「新訂区分」が“取消”の場合には、特定数値項目（「員数」、「質量」、「請求金額」等）にマイナスサインを表示する。（詳細は例 2 を参照）
3. 「新訂区分」が“取消”の場合に「請求種別」欄に表示するコードは、“新規”の場合に表示したコード、あるいは“訂正後”の場合に表示するコードのいずれでも差し支えない。
4. 「出荷請求番号」は、「新訂区分」が“訂正後”の場合には新規に採番しても差し支えない。すなわち、「出荷請求番号」は“S 1 0 8”でも“S 1 0 9”でも差し支えない。
（詳細は例 4 を参照）

例 2. 取消データを誤った場合（「販売単価」の訂正において）

新訂区分	訂正 要因	請求 区分	請求種別	契約 番号	契約番号 行 番	出荷請求 番 号	訂 正 前 出荷請求 番 号	請 求 年月日	注文者	品 種 品 名	員 数	質 量	請求 基礎	口 銭	別途 加減料	仮単価 区分	販売単価	請求単価	請求金額
0 (新 規)		1	1	K365	2	S108		98. 6.15	001	J23	250	50T	25	4. 5%	100 円/T	K	40,000 円/T	***	960,000 円
1 (取 消)	1	1	1	K365	2	S108		98. 6.15	001	J23	-250	-50T	-25	4.5%	100 円/T	K	45,000 円/T	***	-1,079,375 円
2 (訂正後)	1	1	2	K365	2	S108		98. 6.30	001	J23	250	50T	25	4.5%	100 円/T		50,000 円/T	***	1,198,750 円
1 (取 消)	2	1	1	K365	2	S108		98. 6.15	001	J23	-250	-50T	-25	4. 5%	100 円/T	K	40,000 円/T	***	-960,000 円
1 (取 消)	1	1	1	K365	2	S108		98. 6.15	001	J23	250	50T	25	4.5%	100 円/T	K	45,000 円/T	***	1,079,375 円

- (注) 1. 新規データが“取消”の場合には下記 4 項目にマイナスサインを表示することとする。ただし、取消データの取消にはマイナスサインは表示しない。
「No.34 員数」「No.35 質量」「No.36 請求基礎」「No.48 請求金額」
2. 「請求単価」のマイナスサイン桁は“値差処理”の場合だけに使用するものとする。（詳細は例 3 を参照）

例 3 . 値差処理の場合

①行番単位の場合

データ 種 別 ＊	メーカー ＊	新訂区分 ＊	訂正 要因 ＊	国内・輸 出区分 ＊	請求 区分 ＊	請求 種別 ＊	請 求 年月日 ＊	契約 番号 ＊	契約番 号行番 ＊	出荷 請求 番号	注文者 ＊	注文者 店部課 ＊	注文者 照合番号 ＊	需要家 ＊	品種 ・品名 ＊	員数 ＊	質量 ＊	請求単価 ＊	請求金額 ＊
S	01	0（新規）		1	1	2	98. 6.19	K36	1	S105	001	H215	9931	U005	J23	30	60T	19,600 円/T	1,176,000 円
S	01	0（新規）		1	1	1	98. 7. 4	5	1	S106	001	H215	9931	U005	J23	40	80T	19,600 円/T	1,568,000 円
S	01	0（新規）		1	1	1	98. 7. 5	K36 5 K36 5	1	S107	001	H215	9931	U005	J23	30	60T	19,600 円/T	1,176,000 円
S	01	3（値差 処理）	1	1	1	2	98.10.19	K36 5	1		001	H215	9931	U005	J23	100	200 T	-50 円／T	-10,000 円

②約定単位の場合

データ 種 別 ＊	メーカー ＊	新訂区分 ＊	訂正 要因 ＊	国内・輸 出区分 ＊	請求 区分 ＊	請求 種別 ＊	請 求 年月日 ＊	契約 番号 ＊	契約番 号行番	出荷 請求 番号	注文者 ＊	注文者 店部課 ＊	注文者 照合番号 ＊	需要家 ＊	品種・ 品名 ＊	員数 ＊	質量 ＊	請求単価 ＊	請求金額 ＊
S	01	0（新規）		1	1	2	98. 6.19	K36	1	S105	001	H215	9931	U005	J23	30	60T	18,525 円/T	1,111,500 円
S	01	0（新規）		1	1	2	98. 6.19	5	1	S106	001	H215	9931	U005	J23	40	80T	18,525 円/T	1,482,000 円
S	01	0（新規）		1	1	1	98. 7. 4	K36 5 K36 5	2	S107	001	H215	9931	U005	J23	20	40T	19,600 円/T	784,000 円
S	01	4（値差 処理）	1	1	1	2	98.10.19	K36 5			001	H215	9931	U005	J23	90	180 T	-200 円／T	-36,000 円

③約定一括の場合

データ 種 別 ＊	メーカー ＊	新訂区分 ＊	訂正 要因 ＊	国内・輸 出区分 ＊	請求 区分 ＊	請求 種別 ＊	請 求 年月日 ＊	契約 番号 ＊	契約番 号行番	出荷 請求 番号	注文者 ＊	注文者 店部課 ＊	注文者 照合番号	需要家 ＊	品種・ 品名 ＊	員数 ＊	質量 ＊	請求単価 ＊	請求金額 ＊
S	01	0（新規）		1	1	2	98. 6.16	K36	1	S105	001	H215	9931	U005	J23	10	20T	18,525 円/T	370,500 円
S	01	0（新規）		1	1	1	98. 7. 4	5	1	S201	001	H215	9955	U005	J23	20	40T	19,620 円/T	784,800 円
S	01	0（新規）		1	1	1	98. 7.10	K38 3 K38 3	2	S202	001	H215	9962	U005	J23	10	20T	19,620 円/T	392,400 円
S	01	4（値差 処理）	1	1	1	1	98.12.15	K38 3			001	H215		U005	J23		80T	-300 円／T	-24,000 円

- （注） 1. 値差処理の場合、“＊”項目は必ずアウトプットするものとする。なお、「契約番号」については約定一括値差処理の場合、代表の番号をアウトプットするものとする。
2. 値差処理の対象となるデータ（点線より上のデータ）は、通常機械内のファイルから消されておりハードコピー上でしか保存されない。

例 4. 「出荷請求番号」の採番方法について（「請求単価」が 2 度訂正された場合）

①「出荷請求番号」が“訂正後”も変わらない場合

新訂区分	訂正 要因	契約 番号	出荷 請求 番号	訂 正 前 出荷請求 番 号	品種・ 品名	質量	請求単価	請求金額
0（新 規）		K36	S107		J23	20T	20,000 円/T	400,000 円
1（取 消）	1	5	S107		J23	-20T	20,000 円/T	-400,000 円
2（訂正後）	1	K36	S107		J23	20T	21,000 円/T	420,000 円
1（取 消）	2	5	S107		J23	-20T	21,000 円/T	-420,000 円
2（訂正後）	2	K36 5 K36 5 K36 5	S107		J23	20T	23,000 円/T	460,000 円

②「出荷請求番号」が“訂正後”に変わる場合

新訂区分	訂正 要因	契約 番号	出荷 請求 番号	訂 正 前 出荷請求 番 号 （注）	品種・ 品名	質量	請求単価	請求金額
0（新 規）		K36	S107		J23	20T	20,000 円/T	400,000 円
1（取 消）	1	5	S107		J23	-20T	20,000 円/T	-400,000 円
2（訂正後）	1	K36	S108	S107	J23	20T	21,000 円/T	420,000 円
1（取 消）	2	5	S108	S107	J23	-20T	21,000 円/T	-420,000 円
2（訂正後）	2	K36 5 K36 5 K36 5	S109	S107(S108)	J23	20T	23,000 円/T	460,000 円

（例）「出荷請求番号」は「新訂区分」が“取消”の場合は、必ず取消の対象となるデータの番号をアウトプットすることとするが、“訂正後”の場合は、新規に採番しても差し支えない。

「出荷請求番号」を新規に採番した場合は、訂正前の「出荷請求番号」を「訂正前出荷請求番号」に表示することとする。（上記の②を参照）

なお、訂正が、2 回以上にわたる場合は、原則として最初のデータの番号をアウトプットすることとするが、それが不可能な場合は直前の番号をアウトプットする。（上記の②を参照）

各項目の内容・コード体系

目 次

1・・・スタート・エンド識別.....	1	36・・・請求基礎.....	37
2・・・データ種別.....	2	37・・・完納マーク.....	38
3・・・メーカー.....	3	38・・・鋼番.....	39
4・・・新訂区分.....	4	39・・・船番.....	40
5・・・訂正要因.....	5	40・・・需要家管理番号.....	41
6・・・訂正理由.....	7	41・・・口銭.....	42
7・・・国内・輸出区分.....	8	42・・・別途加減料.....	43
8・・・請求区分.....	9	43・・・検査料.....	44
9・・・請求種別.....	10	44・・・仮単価区分.....	45
10・・・請求年月日.....	11	45・・・単価建.....	46
11・・・契約番号.....	12	46・・・販売単価.....	47
12・・・契約番号行番.....	13	47・・・請求単価.....	48
13・・・出荷請求番号.....	14	48・・・請求金額.....	49
14・・・出荷請求番号行番.....	15	49・・・決済条件.....	50
15・・・訂正前出荷請求番号.....	16	50・・・入金予定日.....	51
16・・・訂正前出荷請求番号行番.....	17	51・・・為替レート.....	52
17・・・出荷年月日.....	18	52・・・旧前受金関連項目.....	53
18・・・注文者.....	19	53・・・消費税課税区分.....	54
19・・・注文者店部課.....	20	54・・・消費税率.....	55
20・・・注文者照合番号.....	21	55・・・消費税額.....	56
21・・・需要家.....	22	56・・・売上計上年月.....	57
22・・・揚港・最終仕向国.....	23	57・・・消費税決済条件.....	58
23・・・受渡条件.....	24	58・・・消費税入金予定日.....	59
24・・・受渡場所・住所.....	25	59・・・関税法資産区分.....	60
25・・・一次・二次経由地.....	26	（略称：I M通関区分）	
26・・・輸送便.....	27	60・・・備考欄.....	61
27・・・輸出本船名.....	28	（1）共通予備桁	
28・・・工場.....	29	（2）メーカー独自使用桁	
29・・・品種・品名.....	30		
30・・・規格・仕様.....	31	（参考）	
31・・・等級.....	32	請求単価金額の標準算出方法.....	62
32・・・寸法.....	33		
33・・・梱包結束数.....	34		
34・・・員数.....	35		
35・・・質量.....	36		

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
1	スタート・エンド識別	1	<div style="text-align: center;">1A</div> <div style="text-align: center;">□</div>

内 容

当該レコードについて、スタートレコード、エンドレコード、データレコードを識別する項目である。

コード体系

内 容	コード
スタート・レコード	A
エンド・レコード	Z
データ・レコード	D

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
2	データ種別	1	<div style="text-align: right;">1A</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>

内 容

当該レコードが送状兼請求データであることを表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
送状兼請求データ	S

参 考

発注データの場合のコードは“H”とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
3	メーカー	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\begin{array}{ c c } \hline & \\ \hline \end{array}}^{2AN}$ </div>
<p>内 容</p> <p>メーカーを表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>① 日本鉄鋼連盟総合会員・市場会員並びに特殊鋼倶楽部加盟メーカーを共通コード化の対象とする。加盟以外のメーカーについてはメーカーまたは商社でコードを決める。</p> <p>② 共通コードは、01 番より 59 番までの数字コード及びアルファベット混合コードとする。メーカー・商社使用帯（独自コード）は 60 番以降の数字コードとする。</p> <p>③ 共通コードは「標準項目・コードの手引（改訂版）」の「メーカーコード」を参照。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
4	新訂区分	1	<div style="text-align: right;">1N</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>

内 容

当該レコードについて、新訂区分を表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
新 規	0
取 消	1
訂正後	2
契約番号行番単位の値差処理	3
一括値差処理（注）	4

（注）契約単位あるいは契約一括の場合の値差処理をいう。

参 考

本「データ」の訂正方法については別紙（訂正方法の参考例）を参照のこと。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
5	訂正要因	1	<div style="text-align: right;">1N</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>

内 容

当該レコードについて、訂正要因を表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
契約要因	1
事務要因	2
作業要因	3
クレーム	4
その他 (訂正要因が重複している場合も含む。)	9

(注) 「訂正要因」の内訳は別紙のとおりである。

運 用

- ① 「契約要因」については代金関係の要因に限定して使用しても差し支えない。
- ② 「事務要因」と「作業要因」を明確に区分することが困難な場合は「その他」で処理しても差し支えない。

(別紙)

「訂正要因」の内訳

種別	内 容	備 考
契約要因	(1) 契約変更 (2) 契約取消 (3) 輸送条件変更	営業理由による契約内容の変更 営業理由による契約の取消 出荷以降の輸送条件の変更
事務要因	(1) 誤記（注文書等） (2) 誤記（送り状） (3) 送り状ミスタイプ (4) 送り状送受信ミス	注文書等の誤記、ミスタイプ、訂正モレ、連絡ミス等 送り状の誤記、訂正モレ、連絡ミス等 送り状のミスタイプ 送受信機の機械的ミス
作業要因	(1) 誤出荷 (2) 誤送 (3) 輸送事故	積地での作業ミス 積地以降の輸送途上の荷捌きミス 積地以降の輸送事故
クレーム	(1) クレームのための返送 (2) クレームのための引き取り (3) クレームのための転売 (4) クレームのための値引	品質に関するクレームのための出荷元への返送 品質に関するクレームのための最寄りのメーカーの置き場への引き取り 品質に関するクレームのための転売 （メーカーの社内注文への転用を含む。） 品質に関するクレームのための値引
その他	(1) 過欠斤 (2) 天地災 (3) 調査不明 (4) 訂正要因が重複している場合	揚地実貫デリバリー方式による修正 天地災による事故 調査の結果、原因の判明しないもの

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
6	訂正理由	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\begin{array}{ c c } \hline & \\ \hline \end{array}}^{2AN}$ </div>
<p>内 容</p> <p>当該レコードについて、訂正理由を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字2桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
7	国内・輸出区分	1	<div style="text-align: center;">1N</div> <div style="text-align: center;">□</div>

内 容

当該レコードについて、国内取引、輸出取引の別を表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
国内取引	1
輸出取引	2

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
8	請求区分	1	<div>1N</div> <div><input type="text"/></div>

内 容

当該レコードについて、売掛金請求の邦貨、外貨の別を表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
売掛金邦貨請求	1
売掛金外貨請求	3

(注) 前受金請求……… 2

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
9	請求種別	1	<div style="text-align: right;">1N</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>

内 容

当該レコードについて、請求種別を表示する項目である。

コード体系

請求種別	内 容	コード
当月発生	当月締切日までに出荷、 当月支払対象分（ただし、「前月残」を除く。）	1
当 月 残	当月締切日までに出荷、 翌月以降支払対象分	2
そ の 他	当月締切日までに出荷、 支払対象月が複数にわたるもの	9

(注) 訂正あるいはさかのぼって価格調整を行う場合は、コード内容に関する文章中の「出荷」を「請求」と読み代えて、当該コードを使用する。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
10	請求年月日	6	

内 容

メーカーの請求年月日（メーカーが請求行為または訂正行為を起こした日）を表示する項目である。

アウトプット要領

西暦年月日でアウトプットする。

年……西暦年の下2桁とする。


月……1月～9月は01～09とする。

日……1日～9日は01～09とする。

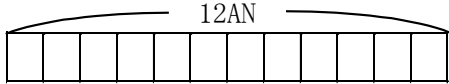
(例)

1998年11月6日

9	8	1	1	0	6
年		月		日	

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
11	契約番号	12	
<p>内 容</p> <p>メーカーにおける契約管理番号を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 1 2 桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)			
12	契約番号行番	3	<div><div></div><div></div><div></div></div> <div>3N</div>			
<div>内 容</div> <div>約定中の明細行の番号を表示する項目である。</div> <div>コード体系</div> <div>数字3桁以内でメーカーが自由に設定する。</div> <div>アウトプット要領</div> <div>右詰め前零でアウトプットする。</div> <div>(例)</div> <div><table><tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr></table></div>				0	0	1
0	0	1				

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
13	出荷請求番号	12	

内 容

メーカーにおける出荷請求番号を表示する項目である。

コード体系

数字または英字 1 2 桁以内でメーカーが自由に設定する。

アウトプット要領

左詰めでアウトプットする。

運 用

- ① 訂正における「取消」の場合は、必ず取消の対象となる送状兼請求データの番号をアウトプットすることとするが、「訂正後」の場合は新規に採番しても差し支えない。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
14	出荷請求番号行番	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\boxed{}}^{2AN}$ </div>

内 容

出荷請求番号の行順の番号およびGrand Totalを意味する“GT”を表示する項目である。

コード体系

数字2桁以内でメーカーが自由に設定する。

ただし、Grand Totalの場合は“GT”で表示する。

アウトプット要領

右詰め前零でアウトプットする。

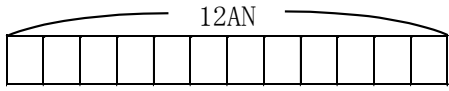
(例)

a)

0	1
---	---

b) Grand Totalの場合

G	T
---	---

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
15	訂正前出荷請求番号	12	
<p>内 容</p> <p>「訂正後」に出荷請求番号を新規に採番した場合に、訂正前の「出荷請求番号」を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 1 2 桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p> <p>運 用</p> <p>訂正が 2 回以上にわたる場合でも、原則として最初の送状兼請求データの番号をアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
16	訂正前出荷請求番号行番	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\boxed{}\boxed{}}^{2AN}$ </div>

内 容

訂正前出荷請求番号の行順の番号およびGrand Totalを意味する“GT”を表示する項目である。

コード体系

数字2桁以内でメーカーが自由に設定する。

ただし、Grand Totalの場合は“GT”で表示する。

アウトプット要領

右詰め前零でアウトプットする。

(例)

a)

0	1
---	---

b) Grand Totalの場合

G	T
---	---

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
17	出荷年月日	6	

内 容

現品の出荷年月日を表示する項目である。

アウトプット要領

西暦年月日でアウトプットする。

年……西暦年の下2桁とする。

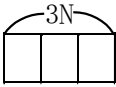
月……1月～9月は01～09とする。


日……1日～9日は01～09とする。

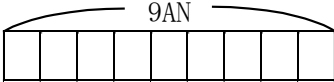
(例)

① 1998年11月6日

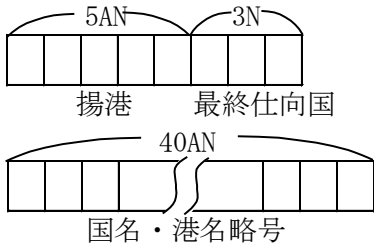
9	8	1	1	0	6
年		月		日	

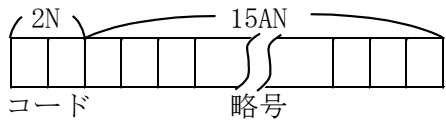
No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
18	注文者	3	
<p>内 容</p> <p>メーカーとの取引における契約当事者を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>① 日本鉄鋼連盟並びに特殊鋼倶楽部加盟商社を共通コード化の対象とする。 加盟以外の商社についてはメーカーでコードを決める。</p> <p>② 共通コードは「標準項目・コードの手引（改訂版）」の「注文者コード」を参照。</p>			

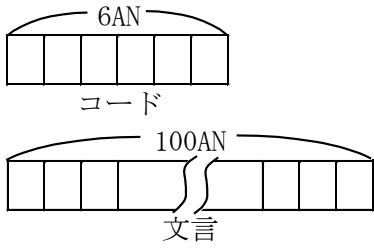
No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
19	注文者店部課	6	
<p>内 容</p> <p>注文者が社内管理用に店部課の区分を必要とするとき、およびメーカーが自社管理用に注文者の店部課の区分を必要とするとき、注文者の店部課コードを表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>原則として各商社が独自に自社の店部課コードを数字または英字 6 桁以内で設定する。ただし、コード体系がメーカー・商社共に満足することが必要な場合は当該メーカー・商社協議の上取り決める。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
20	注文者照合番号	9	
<p>内 容</p> <p>注文者店部課コードと合わせ、注文者社内の整理照合番号を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 9 桁以内で注文者が自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
21	需要家	41	
<p>内 容</p> <p>原則として需要家コード及び略称を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 6 桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>① 略称の表現方法（カタカナ・アルファベット等）はメーカー独自の方法による。</p> <p>② コード、略称とも左詰めでアウトプットする。</p> <p>運 用</p> <p>輸出取引の場合は、Importer、Customer のいずれをアウトプットしても差し支えない。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
22	揚港・最終仕向国	48	
<p>内 容</p> <p>鉄鋼の最終仕向国と本船から荷揚げされる港を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準項目・コードの手引き（改訂版）」の「揚港・最終仕向国のコード・略号表」参照。 ・港コード（2桁）は01番より99番までの数字コード、アルファベットの組み合わせ及び数字コードとアルファベットの混合コードとする。但し、アルファベット「I」と「O」は使用禁止文字とする。 <p>アウトプット要領</p> <p>(1) コード</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 最終仕向国と揚港の国が同じ場合 “揚港”に揚港コード（5桁）をアウトプットする。 ② 揚港の国と最終仕向国が異なる場合 “揚港”に揚港コード（5桁）をアウトプットし、“最終仕向国”に国名コード（3桁）をアウトプットする。 <p>(2) 略 号</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「揚港・最終仕向国のコード・略号表」により、40桁以内でメーカー独自に表現する。 ② 左詰めでアウトプットする。 			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
23	受渡条件	17	
<p>内 容</p> <p>受渡条件を指定する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>「標準項目・コードの手引（改訂版）」の「受渡条件コード・略号表」参照。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>① 表示する場合は、「受渡条件コード・略号表」に基づき該当コードおよび略号をアウトプットする。</p> <p>② 略号は左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
24	受渡場所・住所 (連絡先名・住所・氏名)	106	
<p>内 容</p> <p>現品の受渡場所を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 6 桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コード、文言とも左詰めでアウトプットする。 ② 文言の表現方法（カタカナ、アルファベット等）はメーカー独自の方法とする。 ③ 具体的な受渡場所をアウトプットすることができない場合は受渡場所の略称をアウトプットする。 			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
25	一次・二次経由地	92	

内 容

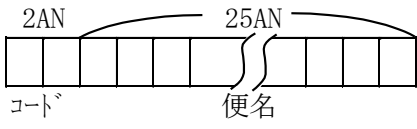
現品輸送の際の経由地（一次・二次）を表示する項目である。

コード体系

一次経由地、二次経由地とも数字または英字 6 桁以内でメーカーが自由に設定する。

アウトプット要領

- ① 表示する場合は、一次経由地、二次経由地のコード、地名とも左詰めでアウトプットする。
- ② 文言（カタカナ、アルファベット等）は、40 桁以内でメーカー独自の表現方法による。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
26	輸送便	27	

内 容

現品を輸送する手段および船名または車種名を表示する項目である。

コード体系


数字または英字2桁以内でメーカーが自由に設定する。

アウトプット要領

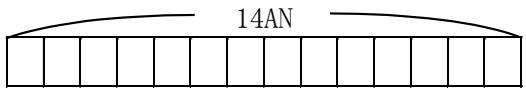
- ① 便名の表現方法（カタカナ・アルファベット等）はメーカー独自の方法による。
- ② コード、便名とも左詰めでアウトプットする。

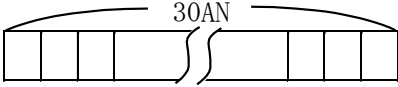
運 用

輸送便名は可能な範囲まで（たとえば、船の場合は“船名”を、トラックや貨車の場合は“トラック”、“貨車”、“ワム”等を）アウトプットすることを原則とする。
なお輸出引取の場合は、はしけの名前でも差し支えない。


No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
27	輸出本船名	25	
<p>内 容</p> <p>現品を輸出する際の本船名を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>① 当項目は文言による。</p> <p>② 文言の表現方法（カタカナ・アルファベット等）はメーカー独自の方法による。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
28	工場	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\boxed{}\boxed{}}^{2AN}$ </div>
<p>内 容</p> <p>現品が製造された工場を表示する項目である。 なお、出荷個所を表示しても差し支えない。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字2桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
29	品種・品名	14	
<p>内 容</p> <p>現品の品種・品名を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 1 4 桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p> <p>運 用</p> <p>「規格・仕様」欄と統合して共通に使用しても差し支えない。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
30	規格・仕様	30	
<p>内 容</p> <p>現品の規格・仕様を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 30 桁以内でメーカーが自由にコードあるいは略号を決定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p> <p>運 用</p> <p>① 「品種・品名」欄と統合して共通に使用しても差し支えない。</p> <p>② メーカーがコード、略号双方を使用している場合は、原則として略号をアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
31	等級	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\boxed{}}^{2AN}$ </div>
<p>内 容</p> <p>現品の等級（込等級も含む）を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字2桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
32	寸法	33	
<p>内 容</p> <p>現品の寸法を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字・英字および特殊文字 3 3 桁以内でメーカーが自由にコードおよび表示方法を決定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
33	梱包結束数	2	<div style="text-align: center;"> $\overbrace{\boxed{}}^{2N}$ </div>
<p>内 容</p> <p>現品の梱包数あるいは結束数を表示する項目である。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>① 右詰めでアウトプットする。</p> <p>② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
34	員数	9	<div style="text-align: center;"> </div> 員数 マイクス 単位 サイン

内 容

現品の員数を表示する項目である。

なお、員数単位は、本、枚、メートル等の識別を行なう項目である。

コード体系

【鋼管を除く全品種】

員数単位	コード
本・枚	P
メートル	M
フィート	F
セット	S
ケース（ボックス）	B

【鋼 管】

員数単位	コード
本	P
メートル	M
フィート	F
トン	T
リフト	L

アウトプット要領

- ① 小数点の位置を固定とし、アウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。

(例) 1 2 5 本

P		0	0	0	1	2	5	0
---	--	---	---	---	---	---	---	---

員数 マイクス

単位 サイン

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
35	質量	10	

内 容

現品の出荷質量を表示する項目である。

アウトプット要領

- ① キログラムの位置を固定とし、アウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ キログラム以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。

(例) 1, 5 0 0 キログラム

	0	0	0	0	1	5	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

マイナス

T

Kg

サイン

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
36	請求基礎	9	<div style="text-align: center;"> </div>

内 容

請求金額算出の際に使用する質量以外の単価の被乗数（単価単位のコードで表現されている内容項目）を表示する項目である。

アウトプット要領

- ① 小数点の位置を固定としアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。

（例）400 枚

	0	0	0	0	4	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---	---

マイナス
サイン

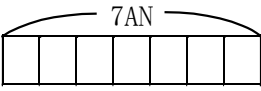
No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
37	完納マーク	1	<div>1N</div> <div><input type="checkbox"/></div>

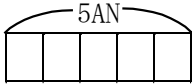
内 容


当該約定について、完納、未完納の別を表示する項目である。

コード体系

内 容	コード
未完納	0
完 納	1

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
38	鋼番	7	
<p>内 容</p> <p>鋼番を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字7桁以内でメーカーが自由に設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
39	船番	5	
<p>内 容</p> <p>需要家から送状あるいは検査証明書へのアウトプットを要求された船番を表示する項目である。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
40	需要家管理番号	22	
<p>内 容</p> <p>需要家から送状（現品随伴）、検査証明書へのアウトプットを要求された需要家の管理番号を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>数字または英字 2 2 桁以内で設定する。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>左詰めでアウトプットする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
41	口 銭	8	<div style="text-align: center;"> </div>

内 容

口銭を表示する項目である。

なお、口銭種別は、%口銭、トン当たり口銭、等の識別を行なう項目である。

コード体系

種 別		コード
内 口 銭	%	P
	トン当たり円	Y
	単価単位当たり（トン当りを除く）円	S
	一契約当たり円	K
	トン当たり米ドル	D
	トン当たり英ポンド	L
	その他口銭	Z
外 口 銭		N

アウトプット要領

- ① 小数点の位置を固定とし、アウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。

(例)

a) %口銭 2.5%の口銭

P				2	▲	5	0	0
(%)								

b) 円口銭 トン当たり 1,500 円の口銭

Y				1	▲	5	0	0
(千円)								

単価単位当たり（トン当りを除く）

3,000 円の口銭

S				3	▲	0	0	0
(千円)								

一契約当たり 7,800,000 円の口銭

K	7	8	0	0	▲	0	0	0
(千円)								

c) 外貨建 トン当たり 3.75 米ドルの口銭
口 銭

D				3	▲	7	5	0
(\$)								

トン当たり 2.35 英ポンドの口銭

L				2	▲	3	5	0
(£)								

d) その他 数値欄に数値をアウトプットするか
口 銭 ブランクとするかは、メーカー自由とする。

e) 外口銭 数値欄はブランクとする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
42	別途加減料	7	<div>邦貨</div> <div>1AN 6N</div> <div>種類 (円)</div> <div>外貨</div> <div>1AN 6N</div> <div>種類 (\$他)</div>

内 容

口銭の対象とならない加減料を表示する項目である。

コード体系

種類コードは数字または英字 1 桁でメーカー自由に設定する。

アウトプット要領

- ① 右詰めでアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 複数の加減料があった場合は加減算してアウトプットする。
- ④ 減の場合には数値欄の 1 桁目に“－”をアウトプットする。

(例)

a) － 5 0 0 円

	－	0	0	5	0	0
種類						(円)

b) － 4 ドル 2 5 セント

	－	0	0	4	2	5
種類						(ドル)

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
43	検査料	7	<p>邦貨</p> <p>外貨</p>

内 容

検査料金および費用の負担側を指定する項目である。

コード体系

内 容	コード
メーカー負担	1
買主負担	2

アウトプット要領

- ① 右詰めでアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)						
44	仮単価区分	1	<div>1A</div> <div><div></div></div>						
<div>内 容</div> <div>単価が、仮単価であるか、本（正）単価であるかを表示する項目である。</div> <div>ただし、輸出取引において円建以外の契約で請求時に為替レートが仮りの場合は単価を仮単価とみなす。</div> <div>コード体系</div> <table><tr><td>内 容</td><td>コード</td></tr><tr><td>本（正）単価</td><td>ブランク</td></tr><tr><td>仮単価</td><td>K</td></tr></table>				内 容	コード	本（正）単価	ブランク	仮単価	K
内 容	コード								
本（正）単価	ブランク								
仮単価	K								

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
45	単価建	1	<div>1A</div> <div>□</div>
<p>内 容</p> <p>「口銭」、「別途加減料」、「検査料」、「販売単価」、「請求単価」、「請求金額」、「消費税額」、「為替レート」の通貨種別を表示する項目である。</p> <p>コード体系</p> <p>「標準項目・コードの手引（改訂版）」の「単価建」参照。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
46	販売単価	10	<div> <div>邦貨</div> <div> <div>1A</div> <div>9N</div> </div> <div> <div>単価</div> <div>単位</div> </div> </div> <div> <div>外貨</div> <div> <div>1A</div> <div>9N</div> </div> <div> <div>単価</div> <div>単位</div> </div> <div>(\$他)</div> </div>

内 容

口銭込単価を表示する項目である。

なお、単価単位はトン当り、メートル当り、等の識別を行なう項目である。

コード体系

単 価 単 位	コード
トン当り	T
キログラム当り	K
メートル当り	M
フィート当り	F
枚数・本数当り	P
セット当り	S

(注) 上記以外のコードの設定はメーカー自由とする。

(ただし、円、米ドル、英ポンド、等の区別は「単価建」で行なう。)

アウトプット要領

- ① 小数点の位置を固定とするか、浮動とするかはメーカー自由とする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。

(例)

- a) トン当り 4 5, 5 0 0 円

T	0	0	0	0	4	5	5	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(円)

- b) トン当り 4 0 0 ドル

T	0	0	0	0	4	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ドル)

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)																
47	請求単価	8	<div>邦貨</div> <div><div>1S</div><div>7N</div><table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table><div>マイナス (円)</div><div>サイン</div><div>外貨</div><div><div>1S</div><div>7N</div><table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table><div>マイナス (\$他)</div><div>サイン</div></div></div>																

内 容

巻末の「請求単価金額の標準算出方法」により算出される「請求単価」を表示する項目である。

アウトプット要領

- ① 右詰めでアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 請求単価を算出できない場合は全桁を“*”（アスタリスク）で表示する。

(例) a) 3 5, 0 0 0 円

	0	0	3	5	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---

マイナス (円)
サイン

b) 4 0 0 ドル

	0	0	4	0	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---

マイナス (ドル)
サイン

c) 請求単価を算出できない場合

	*	*	*	*	*	*	*
--	---	---	---	---	---	---	---

マイナス
サイン

運 用

- ① 単価単位は「販売単価」の単位を共用する。
- ② 本項目のマイナスサインは「値差処理」（項目No.4「新訂区分」コード“3”“4”）の場合にのみ使用する。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
48	請求金額	11	<p>邦貨 1S 10N (円)</p> <p>マイナス サイン</p> <p>外貨 1S 10N (\$他)</p> <p>マイナス サイン</p>

内 容

メーカーが注文者に請求する金額を表示する項目である。

アウトプット要領

- ① 右詰めでアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。

(例)

a) 85,000円

	0	0	0	0	0	8	5	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

マイナス (円)
サイン

b) 600ドル

	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

マイナス (ドル)
サイン

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
49	決済条件	6	

内 容

当該取引の決済条件を表示する項目である。

コード体系

- ① 国内取引については、「標準項目・コードの手引き（改訂版）」の「決済条件コード」参照。
 なお、各桁の「決済条件コード」で定められた以外のコード、および6桁目についてはメーカーが自由に設定する。
- ② 輸出取引については、1桁目の下記以外のコード、および2桁目、3桁目のコードはメーカーが自由に設定する。

1 桁目

内 容	コード
基本契約	K
その他	Z

(参考)

条件 自由コード (使用せず)

--	--	--	--	--	--

アウトプット要領

国内取引の6桁目、および輸出取引の2桁目、3桁目のアウトプットはメーカー自由とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
50	入金予定日	6	

内 容

メーカーにおける入金の予定年月日を表示する項目である。

アウトプット要領

西暦年月日でアウトプットする。

年……西暦年の下2桁とする。

月……1月～9月は01～09とする。

日……1日～9日は01～09とする。

(例) 1998年11月6日

9	8	1	1	0	6
年		月		日	

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
51	為替レート	6	

内 容

「販売単価」が外貨建の場合に当該通貨と円との換算率を表示する項目である。またコード欄は円換算レートを契約時点で指定したものを使用するか、出荷後の実勢レートで精算するか等の区分を表示する。

コード体系

数字または英字でメーカーが自由に設定する。

アウトプット要領

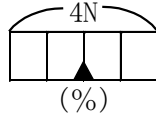
- ① 小数点の位置を固定とし、アウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするかブランクとするかはメーカー自由とする。
- ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。
- ④ 「単価建」がコード“Y”（円）のときはブランクとする。

運 用

- ① 当該通貨の種別は「単価建」の通貨を共用する。
- ② 当該通貨と円との換算率はメーカー・注文者間で別途定めるものとする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
52	旧前受金関連項目		
<p>項目名</p> <p>前受金入金年月日 メーカーにおける前受金の入金年月日（金利起算日）を表示する項目である。</p> <p>前受金金利終算年月日 メーカーの前受金金利負担最終日を表示する項目である。</p> <p>前受金金利負担日数 前受金金利の負担日数を表示する項目である。</p> <p>前受金金利（率） 前受金金利の利率（年率％）を表示する項目である。</p> <p>前受金金利（額） 前受金金利の金額を表示する項目である。</p> <p>前受金請求（償却）金額 前受金について、メーカーが注文者に請求する金額または償却する金額を表示する項目である。すなわち、「請求区分」がコード“2”のときは「前受金請求金額」を、「請求区分」コードが“1”のときは「前受金償却金額」を表示する項目である。</p> <p>差引請求金額 「請求金額」から「前受金償却金額」を控除した「差引請求金額」を表示する項目である。</p> <p>参 考</p> <p>本項目群は、鉄鋼取引で運用されなくなったため、「1998年版」改訂時に標準化対象から除外された。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)						
53	消費税課税区分	1	1AN <div></div>						
<div>内 容</div> <div>消費税の対象（課税）、非対象（非課税）区分を表示する項目である。</div> <div>コード体系</div> <table><tr><th>内 容</th><th>コード</th></tr><tr><td>課税対象</td><td>1</td></tr><tr><td>課税非対象</td><td>ブランク</td></tr></table>				内 容	コード	課税対象	1	課税非対象	ブランク
内 容	コード								
課税対象	1								
課税非対象	ブランク								

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
54	消費税率	4	
<p>内 容</p> <p>消費税の適用税率（％）を表示する項目である。</p> <p>アウトプット要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小数点の位置を固定とし、アウトプットする。 ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。 ③ 小数点以下の数字がない場合は“0”をアウトプットする。 			

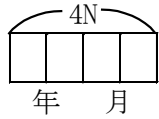
No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
55	消費税額	11	<p>邦貨 1S 10N (円)</p> <p>マウス サイン</p> <p>外貨 1S 10N (\$他)</p> <p>マウス サイン</p>

内 容

消費税額を表示する項目である。

アウトプット要領

- ① 右詰めでアウトプットする。
- ② 数値の前を“0”とするか、ブランクとするかはメーカー自由とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
56	売上計上年月	4	
<p>内 容</p> <p>売上に計上する年月を表示する項目である。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>西暦年月でアウトプットする。</p> <p>年……西暦年の下2桁とする。</p> <p>月……1月～9月は01～09とする。</p> <p>運 用</p> <p>当項目の使用については、メーカー独自とする。</p>			

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
57	消費税決済条件	6	

内 容

当該取引の「税額決済条件」を表示する項目である。

アウトプット要領

輸出取引についてはスペースとする。

コード体系

数字または英字6桁以内でメーカーが、自由に設定する。

運 用

当項目の使用については、メーカー独自とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
58	消費税入金予定日	6	

内 容

当該請求明細について、その「税額決済日」を表示する項目である。

アウトプット要領

西暦年月日でアウトプットする。

年……西暦年の下2桁とする。

月……1月～9月は01～09とする。

日……1日～9日は01～09とする。

運 用

当項目の使用についてはメーカー独自とする。

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
59	関税法資産区分 (略称：I M通関区分)	1	1AN □

内 容

I M通関の承認を受けている原料を使用した輸出向け製品に消費税の課税対象として取り扱う場合は、「当該製品は、関税法第 59 条第 2 項（内国貨物の使用等）の適用を受ける資産である」旨を認識表示する項目である。

〔I M通関の認識を受けている原料（フェロニッケル、フェロクロム）を使用した輸出向け製品〕

コード体系

内 容	コード
関税法第59条第 2 項の適用対象資産	1
関税法第59条第 2 項の適用非対象資産	ブランク

No.	項 目 名	桁 数	レイアウト(A:英字、N:数字、S:マイナスサイン)
60	備考欄 (1) 共通予備桁 (2) メーカー独自使用桁	373	
<p>内 容</p> <p>(1) 共通予備桁 将来の共通運用に備えて設定されたものであり、メーカーの独自使用は不可とする。</p> <p>(2) メーカー独自使用桁 レコードフォーマット上の先頭から 827 桁までの共通項目欄で表示できなかったメーカー独自の情報を表示する桁である。</p> <p>アウトプット要領</p> <p>(1) 共通予備桁 鉄鋼EDIセンターで使用規定が決まるまでアウトプットは不可とする。</p> <p>(2) メーカー独自使用桁 使用方法はメーカー自由とする。</p>			

(参考)

請求単価金額の標準算出方法

昭和47年3月標準化
平成11年4月28日改訂

請求金額の算出は下記A、Bいずれかの方式により行なう。

■ A方式（「請求単価」を算出する方式）

A方式を適用するのは

「販売単価」、「別途加減料」が“トン当たり”または“キログラム当たり”で、かつ「口銭」が“トン当たり”または“%”

の場合である。本方式においては、「請求金額」を算出する過程で必ず“トン当たり”の「請求単価」を算出し、これを「請求書」およびこれに相当するコンピュータ媒体の「請求単価」欄に必ずアウトプットする。

（基本算式）

請求金額＝請求単価×質量

（請求単価の算出方法）

- ①「口銭」が“トン当たり”の場合 請求単価＝販売単価－口銭額±別途加減料
- ②「口銭」が“%”の場合 請求単価＝販売単価×（1－口銭率）±別途加減料

（丸め方）

「請求金額」および「請求単価」（トン当たり）の単価建が邦貨の場合は、円未満を四捨五入する。外貨の場合は、小数点以下3桁目を四捨五入する。

■ B方式（「請求単価」を算出しない方式）

B方式を適用するのは、上記A方式を適用できない場合、すなわち

「販売単価」、「別途加減料」のいずれかひとつでも“トン当たり”、“キログラム当たり”以外か、または「口銭」が“トン当たり”、“%”以外

の場合である。本方式においては、計算過程で「請求単価」を算出せず、直接「請求金額」を算出する。なお「請求書」およびこれに相当するコンピュータ媒体の「請求単価」欄は、全桁を“*”（アスタリスク）で表示する。

（基本算式）

請求金額＝販売金額－口銭総額±別途加減料総額

（販売金額の算出方法）

販売金額＝販売単価×数量〔注．数量は質量以外に本数、枚数、メートル、請求基礎等を含む。〕

（口銭総額の算出方法）

- ①「口銭」が“トン当たり”、“単価単位当たり”の場合 口銭総額＝口銭額×数量
- ②「口銭」が“%”の場合 口銭総額＝販売金額×口銭率
- ③「口銭」が“一契約当たり”の場合 口銭総額＝口銭額

（別途加減料総額の算出方法）

別途加減料総額＝別途加減料×数量

（丸め方）

「請求金額」および「販売金額」、「口銭総額」、「別途加減料総額」の単価建が邦貨の場合は、円未満を四捨五入する。外貨の場合は、小数点以下3桁目を四捨五入する。